

どうかんきょう

真宗大谷派同和関係寺院協議会

2018年12月31日発行

第 57 号



「足尾銅山」現地研修会2018.5.10

第 57 号

主な内容

- p 2
- 現地研修会報告「近代の解放運動の原点 田中正造の生涯を訪ねて」
- p 6
- 「同関協がゆく」Vol.10 その2「反差別と非戦を貫いた僧侶 - 植木徹誠 -」
- p 8
- 会員の声 久留米教区 中村昌法 さん
- p 9
- 2018年度総会報告
- p 10
- 2017年度事業報告・決算
- p 11
- 2018年度事業計画・予算
- p 12
- 気になる一冊 『女たちの「謀叛」——仏典に仕込まれたインドの差別』



私たちは 教団内外における部落差別の克服を願いとし

差別に苦しむものが一人でもいる限り その差別からの解放を自らの課題とする

「同関協」規程前文



「釈迦に乳粥を提供したスジャーはチャンダーラだったのではないか」という仮説から、「仏典に仕込まれたインドの差別」をたどる筆者の旅がはじまる。

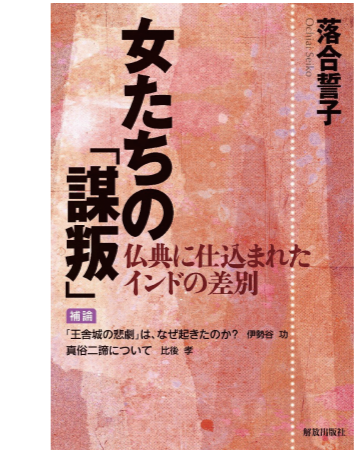
第三十五願に「女は女のままで救われていた」「気配を感じる筆者は、「女人成仏は変成男子」というセオリーを見直すことも議論することもない教団の現状を批判し、近代教学にもメスを入れる。

「来世の果報を人質にして現世の生活の規範を押し付ける」思想はヒンドゥー社会だけの問題でなく、「真俗二諦」を曲解して教化してきた国家主義的近代教学の問題として追及する。

その中で、近代教学の「清沢満之の正統を継いだはずの暁烏敏が、足尾銅山の鉱毒事件で田中正造を批判して、何と言ったか知っていますか」という問いに触れて、

「同関協」が田中正

造に焦点をあてた背景をみたような気がする。



女たちの謀叛  
仏典に仕込まれたインドの差別  
落合誓子 著  
解放出版社

經典編纂の歴史のなかで「紛れ込んだ不純物」を取り除く作業の必要性を感じる

また、頻婆娑羅の仙人殺しに言及し、「王舎城の悲劇」における「ヒンドゥー教とのせめぎ合い」という本質的テーマが「愚かな女の物語」に仕立てあげられていると提言。

スジャータの乳粥を食することでカーストを否定した釈迦の、ヒンドゥー教からの解放という視点は「旃陀羅の救い」への応答を示唆している。

人をフィルターとした新たな「結集」というイメージが湧いてきた。それは近代教学から漏れ落ちた宗祖の同朋精神を拾い上げ、補っていくことになろうか。求められるのは、著者の試論に対する賛否ではなく、自身の「如是我聞」を深く問うことだ。

同著には、伊勢谷功さんの「王舎城の悲劇はなぜ起きたのか?」、そして比後孝さんの「真俗二諦」についての補論が集録されている。この補論にも注目したい。

(編集委員 米澤典之)

会費納入のお願い (年会費5,000円) [郵便振込口座番号] 01010・6・2770 [口座名] 同和関係寺院協議会

編集後記

二〇一八年、日本各地の災害において被災されました、ご門徒ご寺院さまにおかれましては、心よりお見舞い申し上げます▼二〇一八年度「同関協」総会終了後の上寺和親会員による講演

では、滋賀県草津市の福祉事務所にケースワーカーとして勤めておられたとき、被差別部落の方との出会いによって知らされた故郷を語れない現実をお話いただきました。私も、自身の出身地を自己紹介などで言わなくてはならない時、ためらうことがあるのを思いながら、聞かせてもらいました▼二〇一七年度「同関協」現地研修会は、渡良瀬川流域を上流へと進む広範囲な現地研修でしたが、田中正造の生涯は足尾銅山下流域の公害からの解放運動であったことを知りました。今回お世話になった坂原辰男さんも、田中正造の解放への願いを受け田中正造大学を運営されています。足尾銅山の公害は終わったもののよう

(編集委員 高岡聖道)

同関協だより第57号

発行日 2018年12月31日 発行人 松尾英城  
発行 真宗大谷派同和関係寺院協議会 真宗大谷派解放運動推進本部内「同関協」事務局  
〒600-8164 京都市下京区上柳町199 ☎075・371・9247

## 近代の解放運動の原点

# 田中正造の生涯を訪ねて

二〇一七年度「同関協」現地研修会が、二〇一八年五月九日から十一日にかけて、栃木県佐野市から群馬県みどり市や太田市において開催された。「近代の解放運動の原点 田中正造の生涯を訪ねて」をテーマに、田中正造大学の事務局長である坂原辰男さんを講師に、田中正造の生家から墓地、そして鉱毒の元となった足尾地区の渡良瀬川上流域から下流域の渡良瀬遊水地に至るまで、足尾銅山鉱毒事件を学んだ。



田中正造旧宅

## 現地研修レポート

「故郷を奪われた悲しみを忘れない為に」

日中と言えども、肌寒さを感じた五月九日の昼、栃木県の小山駅に集合し、小雨の降る中、高岡聖道編集委員運動のマイクロバスで、今回の講師である坂原辰男さんが待つ佐野市郷土博物館へ向かった。坂原さんと合流し、まず田中正造の事蹟について講義をいただいた。

明治初期に栃木県と群馬県の渡良瀬川周辺で起こった、日本において最初の公害問題と言われる足尾銅山鉱毒事件。当時衆議院議員だった田中正造が国会で、「有害物質が渡良瀬川に流れてしまい、土壌汚染が深刻な問題となっているため、対策をとるべし」と何度も取り上げるが、富国強兵政策に突き進む明治期、政府は採掘・製錬停止には消極的だった。そして加害者決定がなされなかったため、田中は明治天皇に直訴を試みるも失敗してしまう。結果として、その行動が多くの関心を呼び、鉱山を閉鎖する運動に繋がった——と、今までの認識はこの程度だった。完全にこの問題は過去の事で、終結しているものだと思うっていた。

しかし、今回初めて知る衝撃的な事実がいくつもあった。



坂原さんの講義@佐野市郷土博物館

佐野市郷土博物館を後にして、マイクロバスで谷中村の跡地へ向かった。有害物質の下流への流出対策で鉱毒沈殿用遊水地を作るために、強制移住させられ、廃村に追い込まれた村である。一九〇三年には三七七戸二五二七人が暮らしていた村が、一九〇五年には国が土地の買収を行い、翌一九〇六年には廃村となる。足尾銅山鉱毒事件によって「故郷を奪われた」人々がいたことを全く知らなかった。

佐野市内にある田中正造誕生の地、旧宅、墓地を訪れた後、車を西に走らせ、群馬県太田市毛里田にある祈念鉱毒根絶碑へ。一九七一年にカドミウムなどの有害物質が流出し、土壌汚染が広がり、故郷を汚染された住民による賠償闘争が展開されたことも今回の現地研修で初めて知った。また、東日本大震災の際にも堆積場が決壊し、再び汚染が広がってしまったという懸念があったことも教わり、現場の写真を見せていただいた。「受難百年また還らず 根絶の日ぞ何時」という、毛里田の祈念鉱毒根絶碑の裏に刻まれている言葉は、まさにこのことを言い当てている。

そして栃木県に戻り、足尾の山へ。銅を製錬する際に出る亜硫酸ガスによって周辺の山々から木々が消え、煙害によって廃村に追い込まれた村・松木村があったことも初めて知った。



様々な国策によって故郷を奪われた数多の人々が、その惨事を忘れまい、二度と起こすまいと立ち上がり、記録を残し石碑を建てて、その悲しみを通して次の世代の人々へ故郷の大切さを伝えてくれている。それなのに、我々はな

経済優先、個人主義・一代主義とも呼ばれるこの時代社会にあつて、私たちの無関心によって誰かの故郷を脅かしてしまわないためには、かつて故郷を奪われた悲しみから学び続けることに尽きる。また、人々を支配しようとするいかなる時代の圧力にも屈せずに生きようとした人々の歩みこそ、今我々が確かめなければならないのではないだろうか。

編集委員 浜口和也



足尾の緑化運動に参加



# 「百年の悔いを子孫に傳ふることなかれ」を考える旅

田中正造大学 坂原 辰男

田中正造大学 <https://syozo-uni.net>



松木村堆積場跡(栃木県日光市)



谷中村跡(渡良瀬遊水地内)

足尾銅山鉍毒事件の現場を訪ねる旅は、現在と近代を問い直す時間でした。折しも二〇一八年は明治一五〇年という節目の年です。江戸時代という長い封建時代が終わり、明治時代になり近代国家が生まれましたが、果たしてそれは民主主義的な国家なのでしょうか。

鉍毒事件のコースの渡良瀬川は、上流の松木村跡から下流の渡良瀬遊水地までは約百十キロあります。上流は製錬所の亜硫酸ガスによって人が住めなくなった旧松木村です。下流は東京に鉍毒が流れることを恐れたために貯水池となったことにより、村民が強制的に他の地域に移住させられた五百年以上の歴史をもつ旧谷中村です。北海道や栃木県北、また近隣の古河・小山に強制移住させられました。

鉍毒被害は中流の群馬県みどり市から始まり一府五県に及びます。明治時代後期の一大社会問題になりました。被害者総数は三十万人に及び、「非命の死者」(\*)は千五十名になります。事件の爪痕は今でも至る所に残っています。

一九〇七年六月、最後まで立ち退きを拒否した谷中村残留民の家屋を強制破壊して、明治政府は鉍毒事件を終息しようとしました。

谷中村民と共に、足尾銅山と明治政府に對して闘った田中正造は、一九一三(大正二)年九月四日に亡くなりました。あたかも足尾鉍毒事件はそれで終わったかのように教科書には書かれています。しかし戦後、一九五八(昭和三十三年)に足尾の堆積場の一つが決壊し、六千ヘクタールにわたり鉍毒被害が出ました。

鉍毒根絶を叫び群馬県太田市毛里田の農民は被害運動を組織化し、渡良瀬川毛里田鉍毒根絶期成同盟会を結成、足尾の古河鉍業に對して損害賠償請求の闘いを開始しました。総理府公害等調整委員会に對して約四十億の損害賠償を求める調停を申請。その結果、二年二カ月の調停を経て十五億五千万円の損害賠償額で調停は成立しました。

この時、裁判ではなく調停でしたが、その理由はいくつかあります。一つは、裁判では時間がかかり、毛里田村民九百七十一名という大人数の請求人となると多額の経済的負担を要するからです。この方法は公害問題では日本での最初の事例です。同盟会は調停の過程で古河鉍業と公害防止協定を結び、汚染された田畑の大規模な土地改良を要求し、約二十年をかけて公害防除特別土地改良事業が遂行されました。

\* 正造の造語。

祈念鉍毒根絶碑の石碑の裏面には、「苦悩継ふまじ されど史実は伝うべし 受難百年また還らず 根絶の日ぞ何時」と刻んであります。鉍毒事件は、渡良瀬川において未だ終息していないのです。祈念碑の裏面には請求した九百七十一名の直筆の名前が刻んでありますが、建立して四十数年が経つ今日では、生存している人は数名になりました。

この祈念碑は調停成立後一九七七(昭和五十二)年に建立されたものです。表の碑文は、同盟会の会長である板橋明治氏が書いたものです。碑文の内容は、調停で鉍毒事件の加害責任者として古河鉍業を特定したことを強調し、公害防止協定を締結し、足尾の堆積場の安全の監視をこれからも継続的に続けていくことが明記されています。

田中正造の闘い

田中正造は、鉍毒により汚染された日本の亡国を救うため、「人権・自治・環境・自然との共生・立憲政治の確立・平和・軍備全廃」の思想を百年前に唱えています。正造は政治家であると同時に、思想家であり、環境・人権保護運動の先駆者です。

今回の現地研修会では、人間尊重・人権運動の原点、鉍毒根絶運動の歴史を知る上で多くのことを皆さんと学ぶ事ができました。私は真宗大谷派の皆さんが旧谷中村村民の眠る合同慰霊碑と太田市毛里田の鉍毒被害地の祈念鉍毒根絶碑の前で合掌する姿に胸を打たれました。被災者・被害者へ立ち向かう姿にこれまでの私のガイドで不足しているものを感じることができました。これを気づかされたことに感謝いたします。



祈念鉍毒根絶碑(群馬県太田市)



旧谷中村合同慰霊碑(渡良瀬遊水地)

編集委員が知ったこと、目にしたこと、聞いたこと、感じることなど、思うままに表現していくページです。

## 反差別と非戦を貫いた僧侶 - 植木徹誠 -

徹誠が朝熊<sup>あさま</sup>に移って二カ月後の一九三五（昭和十）年七月、三宝寺説教所に朝熊区制差別糾弾闘争委員会本部を置き、徹誠も闘争委員の一人となり「朝熊闘争」を勢いよく再燃させた。本堂ではしばしば闘争委員会や演説会や総会が開かれ、同年九月には北部住民の百十人の連名で三重県知事と内務大臣あてに「陳情書」を送り、それぞれが積極的に善処するように求めた。

また、全国水平社総本部も、「朝熊闘争」を大事件な闘争と評価し、常任委員の井元麟<sup>りん</sup>之を朝熊に派遣し、三重県連の新田らとともに闘争の指導に尽力した。全国農民組合県連も朝熊支援を正式に決め、全面的な協力関係が結ばれた。

朝熊の差別問題は、当時の帝国議会でも取り上げられた。一九三六（昭和十一）年五月、衆議院議員に当選した全国水平社委員長の松本治一郎が、内務大臣に質問し次のような発言をした。「これほど深刻な差別事件を知りませぬ。事実を疑いたいくらいであります」。

一九三七（昭和十二）年になると、「朝熊闘争」は、さらに全国的な注目を浴びることになる。同年三月、東京で開かれた全国水平社第十四回大会では、「朝熊闘争」支援を決定し、問題解決を内務大臣に強く迫った。この大会で三重県連を代表して「朝熊闘争」への支援を訴えた徹誠の演説は、この大会中の白眉であったと伝えられている。

また当時の三重県の警察関係の文章には、徹

誠の存在が問題解決のガン、つまり弾圧側から見た「朝熊闘争」鎮圧の障害と記されたものもある。

三重県連も朝熊の闘争委員会も解決は目前だと考え総力を挙げた。しかし同年夏、盧溝橋での日中両軍の衝突に端を発した日中戦争が拡大し、世の中は戦争熱が高まってきた。

同年の十二月二十日には、三重県下でも全国的な人民戦線事件にかかわって、全国水平社、全国農民組合の関係者四十余名が検挙された。

一九三八（昭和十三）年一月十七日、徹誠ら闘争委員会のメンバー等が三宝寺説教所に集まり、この戦争をどう考え、「朝熊闘争」をどう展開していくのかを議論した日の夜、人民戦線事件第二次検挙により、徹誠を含む三十八人が検挙された。また中心人物であった徹誠を含む数名は治安維持法違反の容疑により起訴され、徹誠はその後約四年間、拘留・拘留された。当時は警察での拷問は当たり前の時代であり、徹誠の受けた拷問は次のようである。

「拷問には、幅の広い腹巻き様の皮が使われた。その、まだなめしていない皮を胸から腹のあたりに巻き、止め金をガチャツとはめる。見たところ、皮チョッキを着たようになる。そして、そのままの姿で水風呂につけられるのだ。皮は水を含むと急速に縮むので、キリキリと胸が締めつけられ呼吸困難になって、おやじは気絶した」

「道場に連れて行かれて、柔道の稽古相手をさせられたこともある。警官が入れかわり立ちかわり、おやじを投げる。おやじが鼻血を出して気絶するまで、この稽古という名の拷問が続けられた」

『夢を食いつづけた男』（植木等著）

同年の三重県下の人民戦線事件検挙者総数八十三人の内、半数ほどが朝熊区の北部住民であることを考えると、三重県での検挙は、「朝熊闘争」弾圧を重点にしていたと考えられる。

一時期は再燃した「朝熊闘争」だったが、中枢部がごっそり検挙されると、闘争は下火になり「北」の結束は緩み始め、「朝熊闘争」は挫折した。また徹誠への誹謗中傷する声に傾く者も出始め、徹誠の家族は朝熊

を追われ、宇治山田（現伊勢市）の借家に移った。

この頃の徹誠の思いを等は、「自分の言ったことが朝熊で曲がって伝えられているという口惜しさ、自分の願い通りに世の中が展開していかないといういらだたしさ、妻子を庇護<sup>ごご</sup>してやれないという父親としての責任感——そんなあれやこれやに、さすが剛毅<sup>こうぎ</sup>なおやじも参ったのだらう（前掲書）と記している。

徹誠は朝熊に何らかの成果を残せたのだろうか。等が一九八三（昭和五十八）年に朝熊を訪ねた時、区長たちから掛けられた言葉が前掲の書に記されている。「見て下さい。町は、こんなに良くなった。これは徹誠さんのおかげです」「徹誠さんの教えを無駄にはしていません。徹誠さんを忘れず、新しい観点で、正しい運動を進めていきたいと思っています」。徹誠は道半ばだったに違いないが、朝熊に大きな功績を遺したと考えられる。

徹誠は三宝寺説教所にいる頃、「朝熊闘争」で差別問題に取り組む中で反差別の声と同じく、「戦争は集団殺人である」と公言していた。先に記したとおり、世の中は日中戦争が拡大し、戦争熱が高まっている中、本堂の隅での一対一の対話だけではなく、駅頭<sup>えきとう</sup>での出征兵士の壮行式の場でも、「中国兵を殺すな、君も死ぬな、必ず生きて帰ってこい」と説き、はなむけの言葉としていた。好戦的な世の中での徹誠のこの発言は、検査され拷問を強いられることは目に見えているにもかかわらず、止むことは無かった。まさに命を懸けた反戦の主張を貫き通したと言っても過言ではない。

太平洋戦争後、徹誠は再び上京し、貴金属細工の仕事を始めた。一九四七（昭和二十二）年に部落解放全国委員会が政府および連合国司令部（GHQ）に朝熊問題の解決を要請したとき、朝熊部落の人々と共に徹誠もこれに参加した。そしてその後も一人の零細企業主として社会運動に加わり、民主商工会や冤罪被害者を支援する国民救済会などの活動を熱心に行った。

晩年病床で徹誠は等に、「等、俺は、あの世に行っても親鸞に合わせる

顔がない。俺は恥ずかしい、恥ずかしい。」（同書）と言い、一九七八（昭和五十三）年に亡くなった。八十三歳だった。

徹誠の活動を振り返り、反差別と反戦を貫いた根幹はいったい何であったのかを考えてみると、「人間平等」であるという極めて明快な信念に立っていると思う。つまり平等であるからこそ、差別をすること、差別されることが人間として間違った行動であり、また平等である人間が殺し合いをする行為も間違った行動であるということだと思ふ。

徹誠が僧侶だったから、この「人間平等」との考えに至ったとは考えにくい。なぜならばキリスト教の洗礼を受けた際、「人間は神の子として皆平等」との考えに目覚めたと言えるからである。しかし親鸞の「人間平等」の信念にも通ずるものを見出したからこそ、徹誠は僧侶になり、死ぬまで僧侶であり続けたのだと思う。親鸞の「人間平等」との考えは、御同朋御同行の言葉に尽きると言える。僧侶徹誠はこの言葉を心におさめて、信念を貫いたのではないだろうか。（了）

編集委員 小幡智博



夢を食いつづけた男  
おやじ徹誠一代記  
植木 等著  
筑摩書房

絶版の同書が筑摩書房から再版されました。

# 2018年度 総会報告

## 真宗大谷派同和関係寺院協議会2018年度総会 - 議案 -

- ① 2017年度真宗大谷派同和関係寺院協議会事業報告
- ② 2017年度真宗大谷派同和関係寺院協議会決算書並びに監査報告
- ③ 2018年度真宗大谷派同和関係寺院協議会事業計画(案)
- ④ 2018年度真宗大谷派同和関係寺院協議会予算(案)
- ⑤ 新会員の承認について

### 学習会 「加差別からの解放を求めて」

京都教区近江第3組西蓮寺住職 **上寺 和親さん**  
Kamidera Kazuchika



二〇一八年七月十九日、しんらん交流館大谷ホールにおいて、二〇一八年度総会が開催されました。総会に先立ち、松尾英城会長の挨拶があり、引き続き但馬弘宗務総長よりご挨拶をいただきました。また二〇一七年十月十六日付で解放運動推進本部長に就任された草野龍子本部長より、就任のご挨拶がありました。総会議事は、草野等（久留米教区）議長のもと、滞りなく進行し、全議案が満場一致で承認されました。会員からは積立金の目的についての質問があり、水平社創立百周年、宗祖御誕生八百五十年・立教開宗八百年、「同関協」設立五十周年に向けた、「同関協」としての取り組みのための積立であることが確認されました。また今回の総会では、長浜教区より三名の入会希望があり、新会員として承認されました。その後、学習会として、本会会員である上寺和親師より「加差別からの解放を求めて」という講題でお話いただきました。上寺師が被差別部落に隣接した町で育ってきた中で抱えてきた「部落」に対するイメージや、市役所職員となり福祉事務所で生活保護のケースワーカーとして働く中で明らかになった自らの差別心や、被差別部落の方との出会いによって知らされた被差別の現実を語っていただきました。特に部落差別によって、「ふるさとを語れない」という現実を取り上げられ、誰がそうさせているのか自らに問うことが大切だと話されました。また大谷大学の故・谷眞理先生の「差別者にとっての差別とは、差別することによって自らが人間性を失う問題である」という言葉に気づかされたことや、水平社宣言に込められた、被差別者も差別者も共に解放されていくという願いに感銘を受けたことを話され、自らも「逃げることなく、自分自身の加差別の歴史を解放したい」という思いで、一生取り組んでいかなければならない」と決意を語られました。

## Member's Voices

### 会員の声

なかむら まさのり  
久留米教区 **中村 昌法さん**

### 私の気づき

2017年から「同関協」に参加させていただいております。

参加のきっかけは、会長の松尾英城さんに誘われて参加できるならば入ります、ということから現在に至ります。振り返れば、教区の解放運動部門部落問題部会の組の選出委員から始まり、教区での本山指定「解放運動特別指定伝道研修」の受講、教区解放運動部門部落問題部会員、本山解放運動推進本部主催の解放運動推進要員研修会を受講させていただきました。組から押し出されていた後に、様々な人に出会い、いろんな場所へ身を運ばせていただいて話を聞いて、肌で感じる中で、部落差別問題は他人事ではないとあらためて思い知らされました。

部落差別問題は一部の人たち問題で、自分には関係がないという思いでしたが、研修会や学習会などに参加して、自分もこの問題と関わりがあることにハッとさせられました。今思えば、中学生の頃に「あの辺はあぶないから気をつけろ」と言われたことが、最初の部落差別問題との出会いでした。またお寺に関わりだして間もない頃、結婚に関する問い合わせについての現実を知ったことです。そのことを聞いた時は何も問題を感じなかったのですが、様々な研修を受ける中で、このことは結婚差別につながる身元調査になるのだということに気づかされました。

「同関協」の規程前文には、「教団内外における部落差別の克服を願いとし、差別に苦しむものが一人でもいる限り、その差別からの解放を自らの課題とする」と示されています。気づいたこと、感じたことを伝えて共有するには、凄く大きなパワーが必要です。

これからの歩みで大切な事は、仏の教えを拠り処とし、親鸞聖人が開いてくださった教えのもとに、部落差別問題をはじめとする、様々な差別問題を自らの課題として考えていくことです。一人では気づかないことや確かめられないことも、共に気づき、取り組んでいけるところが「同関協」だと思います。

まだまだ未熟で浅学でございますが、これからもよろしくお願いいたします。

2018年度 事業計画・予算

《 2 0 1 8 年 》	《 2 0 1 9 年 》
7月 9日 会計打ち合わせ	2月 第2回常任委員会
1 3日 2 0 1 7 年度会計監査	2 0 1 8 年度現地研修会
1 8日 第1 回三役会	第1 回『同関協だより』第 5 8 号編集会議
1 9日 2 0 1 8 年度総会	4月 聞き取り調査
2 0日 第1 回常任・専門委員会	第2 回『同関協だより』第 5 8 号編集会議
9月1 3日 第1 回『同関協だより』第 5 7 号編集会議	5月 第3 回常任委員会
1 0月 第1 回常任委員会	第3 回『同関協だより』第 5 8 号編集会議
第2 回『同関協だより』第 5 7 号編集会議	6月 第2 回常任・専門委員会
1 1月 聞き取り調査	☆ 各ブロック協議会(下半期)
1 2月1 2日 第3 回『同関協だより』第 5 7 号編集会議	☆ 『同関協だより』第 5 8 号発行
☆ 各ブロック協議会(上半期)	
☆ 『同関協だより』第 5 7 号発行	* 各ブロック協議会は年2 回を目途に開催する
	* 三役会を必要に応じて開催する
	(内3 回分の会議費は解放運動推進本部から支出)

2018年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 予算書	歳入の部	3,470,000 円
自 2018年7月1日 至 2019年6月30日	歳出の部	3,470,000 円
歳 入		

項 目	項 目	予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1	1 会 費	500,000	500,000	0	5,000円 *100ヵ寺
2	1 本山助成金	2,300,000	2,300,000	0	
3	1 繰越金	663,751	428,197	235,554	前年度より繰越金
4	1 雑収入	6,249	1,803	4,446	寄付・銀行利息 等
	合計	3,470,000	3,230,000	240,000	

歳 出						
項	目	項 目	予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1		会議費	1,730,000	1,530,000	200,000	
	1	総会費	770,000	700,000	70,000	
	2	役員会費	960,000	830,000	130,000	三役会3回、常任委員会3回、常任・専門委員会2回
2		事業費	1,190,000	1,190,000	0	
	1	組織拡充費	250,000	250,000	0	現地研修会
	2	会報費	940,000	940,000	0	『同関協だより』発行・編集会議6回
3		ブロック協議会費	190,000	180,000	10,000	
	1	助成費	90,000	80,000	10,000	30,000円 *3ブロック
	2	聞き取り調査費	100,000	100,000	0	
4		事務局費	190,000	160,000	30,000	
	1	事務局運営費	60,000	60,000	0	
	2	発送費	130,000	100,000	30,000	
5		積立金会計回付金	150,000	150,000	0	
	1	積立金会計回付金	150,000	150,000	0	
6		予備費	20,000	20,000	0	
	1	予備費	20,000	20,000	0	
		合計	3,470,000	3,230,000	240,000	

2017年度 事業報告・決算

《 2 0 1 7 年 》	《 2 0 1 8 年 》
7月1 2日 2 0 1 6 年度会計監査	2月2 0日 第3 回三役会
2 6日 第1 回三役会	2 2日 第4 回三役会
2 7日 2 0 1 7 年度総会、内局との懇談	3月2 6日 第1 回『同関協だより』第 5 6 号編集会議
2 8日 第1 回常任・専門委員会	4月1 3日 第5 回三役会
8月2 2日 第2 回三役会	5月 9日～1 1日 2 0 1 7 年度現地研修会
9月 4日～5 日 「是施陀羅」問題に関する学習会	2 2日 第2 回常任委員会
9日1 2日 第1 回『同関協だより』第 5 5 号編集会議	2 4日 第2 回『同関協だより』第 5 6 号編集会議
1 0月1 2日 第1 回常任委員会	2 8日 第6 回三役会
1 3日 第2 回『同関協だより』第 5 5 号編集会議	2 9日 聞き取り調査
1 2月 5日 第3 回『同関協だより』第 5 5 号編集会議	6月1 2日 第3 回『同関協だより』第 5 6 号編集会議
3 1日 『同関協だより』第 5 5 号発行	2 0日 第2 回常任・専門委員会
	3 0日 『同関協だより』第 5 6 号発行

2017年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 決算書	歳入の部	3,363,206 円
自 2017年7月1日 至 2018年6月30日	歳出の部	2,699,455 円
	歳入歳出差引剰余金	663,751 円
歳 入		

項 目	項 目	収入額	予算額	比較増減	備 考
1	1 会 費	605,000	500,000	105,000	5,000円 *120ヵ寺、3000円*1ヵ寺、1,000円定期購読者*2名
2	1 本山助成金	2,300,000	2,300,000	0	
3	1 繰越金	428,197	428,197	0	前年度より繰越金
4	1 雑収入	30,009	1,803	28,206	寄付・銀行利息 等
	合計	3,363,206	3,230,000	133,206	

歳 出

項 目	項 目	支出額	予算額	比較増減	備 考
1	会議費	1,301,000	1,530,000	△ 229,000	
	1 総会費	727,500	700,000	27,500	
	2 役員会費	573,500	830,000	△ 256,500	三役会(同関協支出)3回、常任委員会2回、常任・専門委員会2回
2	事業費	974,594	1,250,000	△ 275,406	
	1 組織拡充費	229,352	250,000	△ 20,648	現地研修会
	2 会報費	708,356	940,000	△ 231,644	『同関協だより』発行・編集会議6回
	3 事務局運営費	36,886	60,000	△ 23,114	
3	ブロック協議会費	160,000	180,000	△ 20,000	
	1 助成費	60,000	80,000	△ 20,000	3ブロック助成
	2 聞き取り調査費	100,000	100,000	0	
4	発送費	113,861	100,000	13,861	
	1 発送費	113,861	100,000	13,861	
5	積立金会計回付金	150,000	150,000	0	
	1 積立金会計回付金	150,000	150,000	0	
6	予備費	0	20,000	△ 20,000	
	1 予備費	0	20,000	△ 20,000	
	合計	2,699,455	3,230,000	△ 530,545	